

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和8年度技術情報第15号(果樹カメムシ類)について (送付)

下記のとおり取りまとめましたので、周知及びご指導をよろしくお願いいたします。
なお、本情報は、病虫害防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>) にも掲載しています。



令和8年度 技術情報第15号

8月上旬、果樹カメムシ類の予察灯で、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシともに平年より多い地域が認められている。果樹園内外をよく見回りカメムシ類の飛来を認めたら、直ちに防除する。

1 農作物名 果樹全般

2 病虫害名 果樹カメムシ類 (ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ)

3 情報の内容

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 ツヤアオカメムシ：多、チャバネアオカメムシ：多

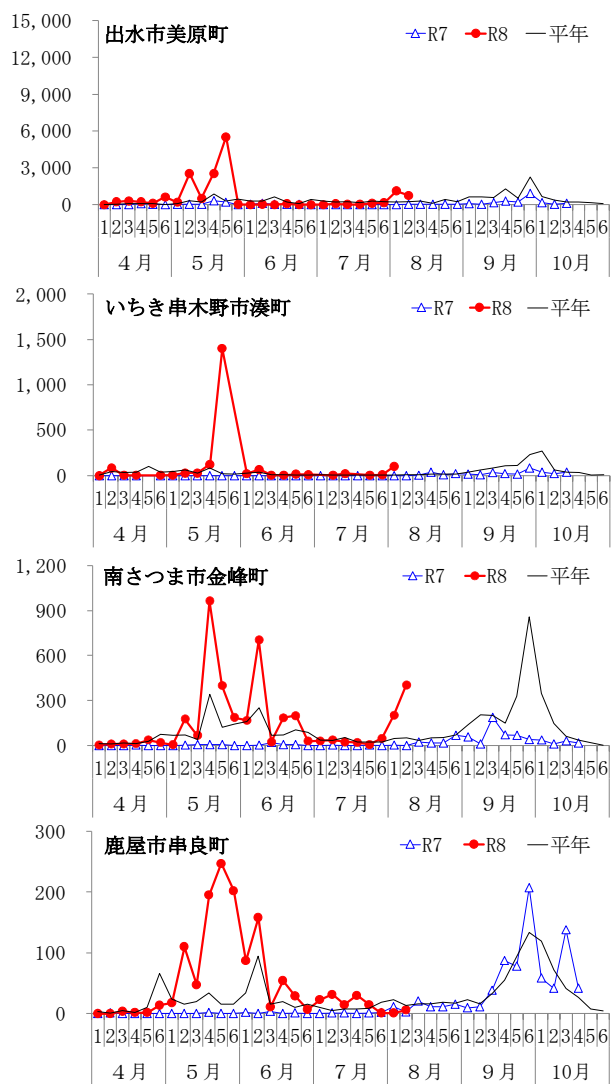
4 発生状況

- (1) ツヤアオカメムシの予察灯での誘殺虫数は、出水市、いちき串木野市、南さつま市及び鹿屋市の全地域で5月に急増し、平年より多かったが、6月には減少した。8月に入り、出水市、いちき串木野市、南さつま市の3地域で増加し、平年より多い(図1)。
- (2) チャバネアオカメムシの予察灯での誘殺虫数は、5月下旬に出水市で急増し、平年より多かったが、6月には減少した。8月に入り、出水市、南さつま市の2地域で増加し、平年より多い(図1)。
- (3) 令和8年度のヒノキの球果(餌植物)量は、平年よりやや多い(表1)。また、8月上旬のヒノキ球果の口針鞘数(吸汁痕数)は、平年と同程度であるが、前年より増加している(表2)。ヒノキ球果から離脱する口針鞘数の目安は25本/果であり、一部の地域で最大口針鞘数が20本/果に達している。
- (4) 現地情報では、一部の果樹園(カンキツ)で本カメムシ類の飛来が認められている。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 果実が吸汁被害を受けると落果や果実品質の低下を招くため、こまめに園内外を見回り飛来を認めたら直ちに防除する。
- (2) 防除薬剤は、比較的残効の長いネオニコチノイド系薬剤または合成ピレスロイド系薬剤を選択する。ただし、合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類が急激に増加することがあるので、散布後はハダニ類の発生に注意する。
- (3) カメムシ類は夜行性であるため、防除は早朝か夕方に実施し、防除にあたっては、薬剤の使用回数や使用時期などの使用基準を遵守する。

ツヤアオカメムシ



チャバネアオカメムシ

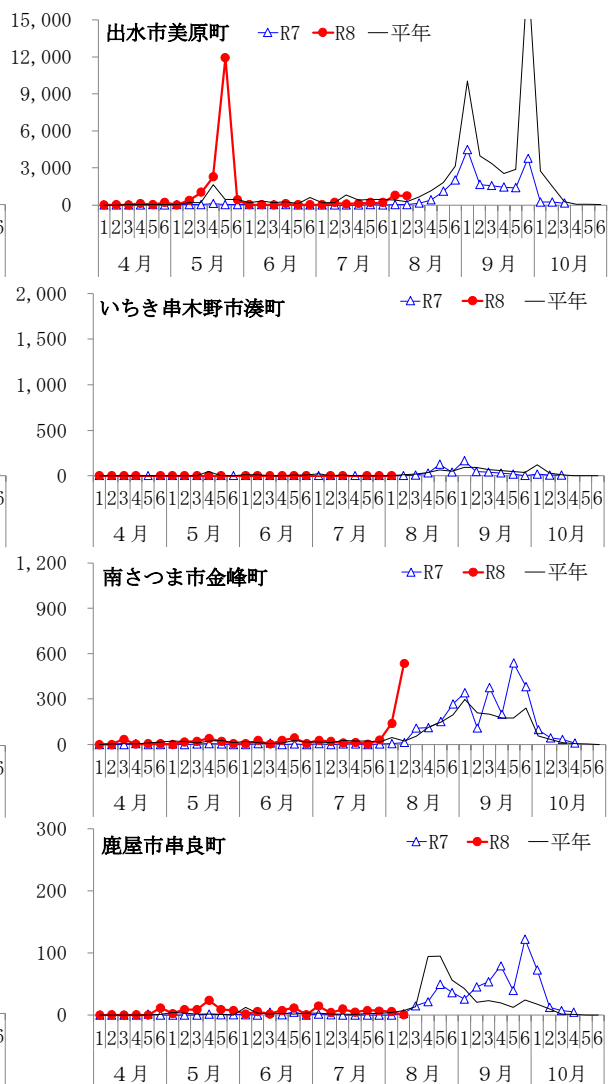


図1 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

注1) 平年は、2016～2025年の10年間平均 2) グラフの縦軸は、半旬ごとの誘殺虫数
3) 予察灯の光源は、南さつま市金峰町は水銀灯 100W、鹿屋市串良町は捕虫灯 20W、他は捕虫灯 40W

表1 ヒノキ球果量指数

調査地域	本年（平年比）	前年（R7）	平年
南薩	57（やや多）	33	43
北薩	60（並）	37	53
始良	60（並）	40	55
大隅	—	36	43
平均	59（やや多）	36	49

注1) 球果量は目視による達観調査（28地点），評価は7段階
2) 球果量指数は愛媛県（2018）による。
3) 球果量指数：（（極多地点数×7）+（多地点数×6）+（やや多地点数×5）+（中地点数×4）+（やや少地点数×3）+（少地点数×2）+（極少地点数×1））/（総地点数×7）×100
4) 平年は2016～2025年の10年平均

表2 ヒノキ球果の口針鞘数（カメムシ類の吸汁痕数） 単位：本/果

調査地点	地点数	調査月日 8/4～8/7
南さつま市	1	6.9(20) ※
いちき串木野市	1	8.2(19)
阿久根市	1	2.1(7)
出水市	1	4.8(11)
さつま町	1	8.5(19)
本年平均	5	6.1
前年平均	10	2.2
平年平均	8	6.6

注1) 平年は、2016～2025年の10年間平均。
表中の（ ）※は最大口針鞘数を示す。
2) カメムシがヒノキ球果から離脱する目安は口針鞘数25本/果
3) 調査球果数：20個/地点